

からしだね

vol.27

2016年9月



与える福祉ではなく、その人にとって必要なことをそのひとの自立に向けて支援する

こいしろの里 ホームページ公開中！

こいしろの里

<http://betesta.org>

検索



今日の福祉では、“農福連携”という言葉をよく耳にします。“農福連携”とは農業従事者の減少や耕作放棄地の増加などの課題に対して、障害のある方が農業に関わり就業機会の確保や収入増加につなげていく取り組みです。障害のある方がイキイキと働くことで地域も元気よく活性化していくことを目的にしています。

私は仕事をしていく上でつくづく『縁』は大切にしなければならないと感じました。今回、私はこいしろの里が農福連携に出会い、取り組むことになるまで、たくさんのアドバイザーの方とのすばらしい『縁』に恵まれました。今思えば、こいしろの里が農福連携を行うきっかけとなったこの沢山のご縁は、実は必然的な出会いだったといえます。

現在、こいしろの里は、新たな事業に向けて試行錯誤しております。とくに地域貢献に力を入れ、過疎化した地域の活性化を“農福連携”の考え方に基き実現しようとしています。具体的には、うきさと地域や嬉野地域など過疎化が進んでいる地域を元気にしたいという思いで計画を立てています。そのプロジェクトがいかに様々な『縁』で進んできたかをお伝えします。

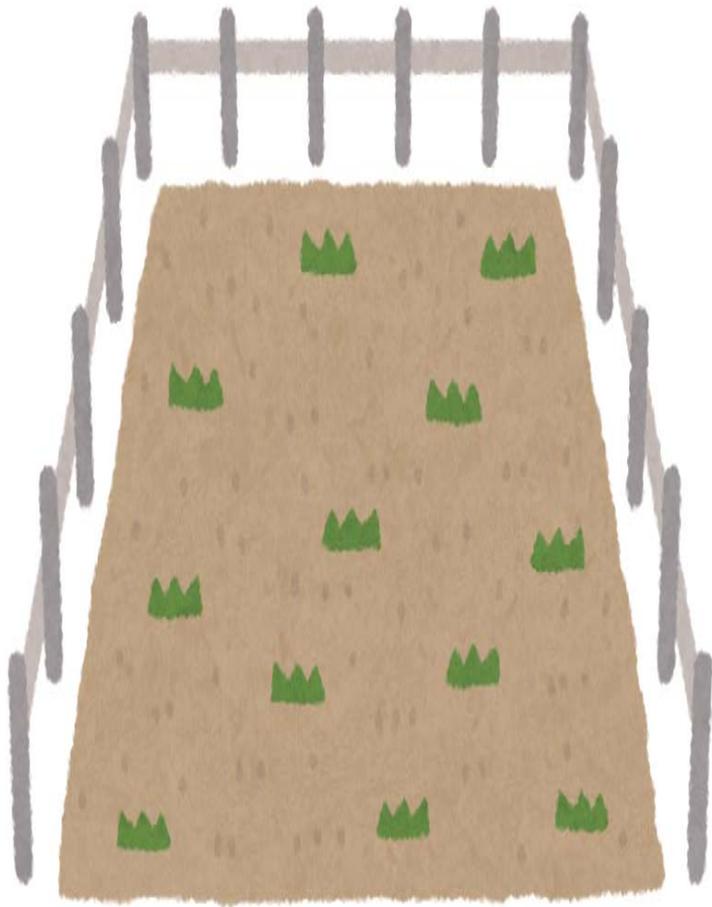
縁

えん・えにし

私はこいしろの里の代表として全国組織である共同連の大会に参加しました。そこで知り合った滋賀県にある社会福祉法人共生シンフォニーの代表者である中崎さんとの出会いがすべてのスタートでした。そして、こいしろの里に農福連携の情報を深く教えていただく基となったのが、中崎さんから同県にある事業所で無農薬・無肥料での野菜栽培を行い、安全な野菜を使ってレストランをしている特定非営利活動法人縁活（就労支援B型作業所おもや）の施設長である杉田さんを紹介していただいたことです。そこで、おもやが加入している“自然栽培パーティ”が、今年の5月20日（金）・21日（土）に愛知県豊田市で第1回全国フォーラムを開催するので参加をしないかとお誘いを頂き、こいしろの里が本格的に農福連携に取り組む、大きな一歩となりました。

“自然栽培パーティ”は「障害のある方の働く場がない」「農薬や肥料づけになった食の不安」「増えるばかりの耕作放棄地」「地方衰退の危機」などの困りごとを『困って』ばかりいないで、世の中をたのしくしていくように働きかけています。具体的には耕作放棄地の再生や障害のある方の働く場所の確保、そして給料（工賃）の向上を目標としています。

私は当初、農業という仕事は障害のある方の仕事として成果が分かり難いのではないかと、また、あまり向いていないのではないかと感じていました。しかし、それは大きな間違いでした。一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会の代表者である佐伯康人さんの「農業は昔から‘百姓’と言われている。‘百姓’とは百の仕事があるということであり、障害のある方ができる仕事必ずある」という言葉を聞き、驚きました。そしてお話を聞いていくうちに、障害のある方が農業に携わることで地域にとっても障害のある方にとってもプラスになることが沢山あることがわかりました。



この自然栽培パーティが開催する第1回全国フォーラムに参加させていただいた時には農福連携のアドバイザー事業をしているHUB's 常務理事の林正剛さんと出会い、ここでもすばらしい『縁』をいただきました。この時は、今後のこいしろの里の地域貢献プロジェクトに林さんがアドバイザーとして中心となり、関わっていただくことになるとは思いませんでした。

HUB's の林さんは、こいしろの里が三重県でいち早く農福連携を事業として行おうとしていることに関心を持ち、今年の6月10日に三重県伊勢市で開催される第1回ノウクフォーラム in 三重の情報を提供してくれました。この三重県で開催されたノウクフォーラムこそ、うきさと地域と嬉野地域の地域活性化に大きくつながる出来事でした。

第1回ノウクフォーラム in 三重には、こいしろの里のサービスを利用されている方の保護者の松本さんも参加するというので、私たちこいしろの里の職員と一緒に会場に向かいました。その移動する車内で、このプロジェクトが現実になる一番の出来事が起きたのです。松本さんはうきさと地域と嬉野地域にある耕作放棄地や家屋をこいしろの里が探しているということを知り、今後使うこともなくなる松本さん所有の田畑や竹林、家屋が嬉野にあるので、こいしろの里で使ってほしいと言ってくれたのです。こいしろの里はうきさと地域や嬉野地域に土地や家屋をずっと探してきましたが、見つかる時はいとも簡単に、それも探していた田畑や家屋以外にも茶畑や竹林という付属もついて見つかるなんて、これは“運”そして農福を通じた『縁』でしかないと感じました。

現在、HUB's の林さんをアドバイザーに迎え、一般社団法人都市農地活用支援センターが行っている「農」ある暮らしづくりアドバイザー派遣事業を利用し、うきさと地域と嬉野地域で地域の活性化を目指し、“農福連携”を実現するために検討をしています。

このようにこいしろの里は、たくさんの方の必然的な『縁』でうきさと地域と嬉野地域に新たな農福連携事業を行う準備ができました。地域が活性化するにはまだまだスタートラインに立ったばかりです。松本さんから寄付していただいた土地や家屋を最大限に有効活用し、こいしろの里は地域の方と共にワクワクする事業を行ってきたいと思います。

大切な財産をご寄付していただきました松本さん、誠にありがとうございます。大切にに使わせていただきます。そして、中崎さんを始め、杉田さん、佐伯さん、林さん、すばらしい『縁』をありがとうございます。今後もこいしろの里の農福連携事業にご協力をお願い致します。

社会福祉法人ベテスタ障害者支援施設こいしろの里が設立して15年目を迎えます。こいしろの里は知的障害者の人権を守り、利用者を一人の人間として向き合い、常に何が必要なのかを考え支援してきました。これからもより一層利用者との向き合い、障害特性を重視し個々の能力開花を目指して支援して行きます。そのために施設は今よりも発展していかなければならない段階に来ています。さて発展と言っても何を発展目標にかかげるの？と疑問に思う方もいるでしょう。建物をよくするの？新しい事をはじめると？何か店をだすの？いろんな発展方法があると思います。そんな中、まずは一部の作業に着目し、説明する事にします。

こいしろの里では新しく農業班を立ち上げます。いわゆる流行の“農福連携”ってやつですね。こいしろの里でも今まで農業をしてこなかったわけではありません。農業はしていました。しかし地力がなく、育てる作物に限られていたのです。1年前はアドバイザーから「何も育てられない。育つとしたら、カボチャ、さつまいもぐらいです。」と指摘を受けました。そんな中でもカボチャ、さつまいも、枝豆、大根を利用者と共に作業し、立派に育てることが出来ました。また育てる合間に地力を上げる作業も怠ることなく、土の改良を行って来ました。そして約1年後の今年6月土壌調査を行った結果、なんと「何でも育てられる立派な畑」とアドバイザーからお墨付きをもらったのです。その結果を聞いた職員は、ここからが出発と決意し、改めて農業と福祉を融合させていこうとなったのです。

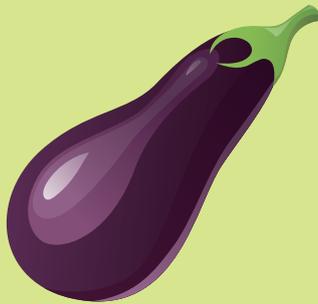


農業班は農業を学んできた職員ではないため、試行錯誤の連続でした。利用者が毎日作業が出来るような環境を作るためにも、さまざまな問題も解決しなければいけませんでした。連作障害の問題、作物と虫の関係性、などなど、調べれば調べるほど農業の奥の深さ、そして安心と安全の作物を目指し、農業班で議論を重ねてきました。試行錯誤すること約2ヵ月、ようやく「こいしろの里農業3ヵ年計画」が完成したのです。

まだ農業が再スタートして2か月ですが、これからは試行錯誤を繰り返し、利用者と共にいろいろな作物を育てていきます。皆さんに安心・安全な野菜をお届けできる日もそう遠くない未来だと確信しています。

こいしろの里は常に利用者の事を第一に考え、前に進み続け、発展していかなければいけないのです。今回は農業を紹介させて頂きましたが、農業以外の作業も利用者の能力に合わせて行っています。また機会があれば報告していきたいと思います。興味のある方は是非、見に来てください。

栽培予定の野菜（一例）



畑の計画図

17.5 m

ぶどう区画
(予定)

うね 31

44 m

野菜区画

うね 1

社会福祉法人ベテスタ こいしろの里（三重県松阪市）では、2016年8月27日「こいしろの里夏祭り」を開催しました。

今年の夏祭りは天気の心配もありましたが、幸い天候が崩れることもなく、無事執り行うことができました。今年は屋台のメニューが一新され例年にない「激辛から揚げ」や「クリームソーダジュース」などの特徴のあるものを販売してみました。トモさんによるハンバーグカレーや生フランク・きゅうり棒・お好み焼きスティックはお子様たちに好評で、毎年恒例になってきた親愛福祉会の方が作ってくださる「親愛やきそば」も大好評でした。利用者さんたちも事前に配られた金券を上手に使いながら、おいしい屋台めしを満喫していました。

施設長による開催宣言で夏祭りの幕が開くと、まずは毎年恒例のパフォーマンス書道です。職員の指導のもと、利用者さんがとても力強い迫力のある字を書いてくれました。今年の文字は「挑」という字です。新たなことに職員も利用者さんも一丸となって挑んでいくという気持ちを込めて書いてもらいました。

外部ゲストには「沖縄民謡団体」「古立ファミリーSHOWAバンド」をお招きし、素敵な演奏と歌声で夏祭りを彩っていただきました。演奏をしながら、利用者さんたちも席に着き、リズムに合わせて体を揺らしたり、じっくり聴き入ったり



していました。また、今年も会場を盛り上げてくれるゆるきゃらがこいしろの里にやってきてくれました。「シロモチくん」「ちゃちゃも」「明姫」が現れると会場の注目を一心に集めていました。ゆるきゃら達も「松阪しょんがい音頭と踊り保存会」「花水貴会」「カップちゃん」の皆さんや利用者のみなさん、会場に来てくれた地域の方々と一緒に盆踊りに参加し、たのしい時間となりました。

花水貴会の方にいろいろな盆踊り教えていただき、夏祭りを迎える前日まで、職員と利用者さんで何度も練習しました。練習中は利用者さんも「むずかしいなー」「踊れるかなあ」と不安な言葉を口にされていましたが、練習の成果が出たのか、本番ではみんな上手に楽しそうに踊られていました。

最後のフィナーレはナイアガラの滝をこいしろの里夏祭りとしては初めての試みとして行いました。花火の合図と同時に音楽が流れると、会場からは「ナイアガラやー」「すごーい！」といった声上がり、会場は大いに盛り上がりを見せ幕を閉じました。

夏祭りでの楽しい思い出を力に変え、パフォーマンス書道で書いてもらった「挑」という字を心に、利用者さんも職員も今後の作業に一丸となって取り組んでいきたいと思えます。



楽しんでってな



心をこめて

繁盛！



イエーイ！

**盆踊り
ゆるきゃら参戦**



盆踊り

たそがれ



有終の美

放課後等デイサービス「びーとる」では、18歳以下の子どもを対象に様々な活動や遊びを通して、自立や社会性などの力を養う支援を行っています。

昨年12月に開設以来、当初は2～3名だったお子さんも、今では20名ほどに増えました。活動は、「工作」「調理」「課題学習」「買い物実習」などを曜日ごとに組み込んでいます。

放課後等デイサービスはその名の通り、普段は放課後を中心に利用していただいておりますが、8月は「びーとる」にとって初めての夏休みを迎え、丸一日利用されるお子さんも多く、普段より長いプログラムを用意し活動しました。



来年4月には新しい建屋が完成する予定です。この「びーとる」での活動をより充実させ、楽しい行事もたくさん企画していきたいと考えています。また、保護者の方とのコミュニケーションを大切にし、お子さんの成長や、日々変わっていく状態など、小さなことでもしっかりと情報を共有していきたいと思えます。

青空福祉会の報告

支援員 伊藤尚子

7月24日(日)青空福祉会(通所利用者保護者学習会)を開催しました。今回は、保護者学習会(入所利用者保護者学習会)と合同で、映画「どんぐりの家」の上映をしました。

「どんぐりの家」は、聾重複障害児の成長過程と、その父母らを中心とした取り組みで重複障害児が働き成長できる共同作業所「どんぐりの家」ができるまでを、アニメーション化したドキュメント映画です。ご参加くださった保護者の方々は、その内容に共感され涙するシーンも多く見られました。上映後は、懇親会の場をもち、手打ちそば等の昼食を食べながら映画の感想や色々な話題でにぎやかな時間を過ごしていただきました。私たち職員も、喜びも苦しみも共感し、保護者の方々と共に利用者を支える支援者でありたいと感じました。



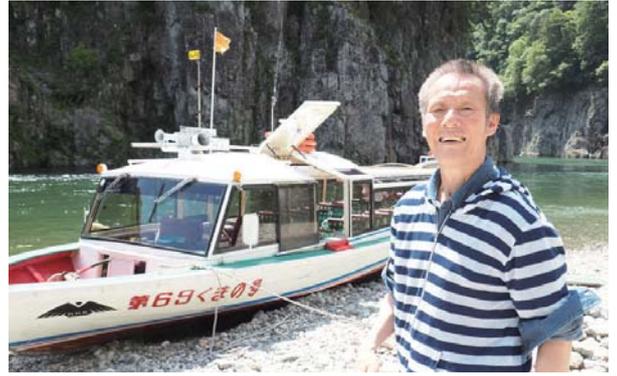
今回の映画上映は多くの保護者の方々にご好評をいただきました。今後も毎月第4日曜日に青空福祉会を開催し、皆さまに喜んで頂ける内容の学習会をしていきたいと考えております。

2016年5月18日-19日、入所利用者さんと在宅利用者さん合わせて24名で熊野へ旅行に行きました。

利用者さんは外出が大好きです。旅行に行けるとなると、ドキドキワクワク、そわそわしてきます。利用者さんの様子を見ていると嬉しさが表情にあらわれ、職員も嬉しくなります。

1日目、バスにゆられ穏やかな七里御浜、獅子岩が見えてくると「おー海だ海だ!」「あれは鬼か? 犬か?」などの歓声があがり、見慣れない風景を味わいながら車内でビンゴゲームやカラオケを楽しみました。昼食は熊野のレストランにて豪華なハンバーグ御膳や、とれたてのお刺身御膳を食べました。食後にはウォータージェット船での瀨峡（どろきょう）めぐりです。新緑の瀨峡の中を時速40kmで軽快に疾走する船は迫力満点!! 皐月のまぶしい日差しと時折飛んでくる水しぶきに「キャー」「すごい!」「気持ちええなー」「つめたーい!」「魚おる!おる!」などと驚き半分喜び半分といった声がいたる所から聞こえてきました。乗船中は運転手さんのガイドを聞きながら川べりの風景を眺め、激しく軽快な水上の旅を楽しみました。

1日目に宿泊した小口自然の家では夕食後に宴会が行われ、普段着慣れない浴衣を身にまとい戸惑っている様子の利用者さん達でしたが、ビールやジュースを飲み、おつまみを食べながらカラオケや一発芸などで盛大に盛り上がり宴会気分を楽しみました。



2日目は今回の旅行のメイン、“熊野古道”です。天気は快晴で、さわやかな汗を流しながらゴールの熊野本宮大社に向けて歩き始めました。最初は軽快に歩いていた利用者さんたちも、時間が経つにつれて足取りも重くなり、弱音を吐く人も出てきました。職員や利用者さん同士で声を出して励まし合いながら、無事、全員で熊野本宮大社まで歩ききることができました。なんと計4時間近く歩き、一人も脱落者が出なかった事に職員も一安心!

ゴールした後に食べたおにぎりは格別の味だったようで、利用者さんも職員も黙々とおにぎりを頬張りました。

この2日間の旅行では、初めての体験や、たくさんの方たちとの出会いがあり、忘れられない楽しい思い出となりました。



衣類販売

支援員 岸本茉莉

こいしろの里では、利用者さんにおしゃれを楽しんでもらうために2つのお店に依頼し、施設内にて衣類販売の取り組みを行っています。

利用者さんは搬入された色とりどりの洋服を見ると、それだけでワクワクします。たくさんの洋服の中から自分で好みの洋服を選んだり、販売に来てくれているお店のスタッフさんにコーディネートしてもらったりして「どれにしようかなあ。」と悩みながら鏡の前で試着して洋服を選んでいきます。

自分で選んだ洋服を実際に購入した利用者さんは、どの利用者さんも本当に嬉しそうな顔をされています。次の日、さっそく購入した洋服を着ている利用者さんもみえ、おしゃれを楽しんでくれていることが分かるので職員としても大変嬉しく思います。

これからも洋服を自分で選び、購入する楽しさを感じてもらいたいと思います。そして利用者さんたちがおしゃれすることで、生き活きと楽しく生活してもらえるよう支援していきたいと思います。



水泳大会

支援員 小林広尚

2016年07月31日 水泳大会を行いました。

御好評をいただき4回目の開催となり、今回も提携させていただいているJSSスイミングスクール松阪様のプールをお借りして、午前、午後の開催で実施しました。

まず、挨拶、点呼をして元気良く練習がスタートしました。ウォーミングアップの水慣れ、水中歩行では、水がかかったり、広いプールを使って水中で陸上とは違う感覚で歩いたり、ジャンプをしたりするだけで、みなさん楽しそうにしていました。

ウォーミングアップが終わると、大きいビート板に乗ってバタ足をしたり、大きいボールをみんなで押したりといった練習をしました。職員もいっしょになって楽しみ、練習は徐々に盛り上がっていきましました。



続いて、水面にボールを浮かべて玉入れ、リングを水に沈めて拾う練習をしました。みなさん積極的に練習に参加して楽しんでいる様子でした。

今回で4回目の開催となりましたが、参加者のみなさんは毎回とてもいきいきとプールを楽しんでいるように感じます。さらにたくさんの方々が水泳を楽しめるような環境を作っていけるようにこれからも活動していこうと思います。

2016年07月31日 三重大学吹奏楽団アンサンブルが来演されました。

7月31日(日)に、金管アンサンブルによるコンサートを開きました。三重大学から来ていただいた4名の学生さんと、こいしろの里職員1名で演奏をしました。

最初にトランペットのデュエットをしました。1曲目の「てのひらを太陽に」が始まると、利用者の皆さんは持っている鈴や鳴子を鳴らしたり、一緒に歌ってくれたりしました。体全体で曲にのってくれる利用者の方もいて、とても良い雰囲気だったと思います。曲の途中で1人の利用者さんが泣き出してしまいました。私たちの演奏が少しでも心に届いたのかなと思うと、胸が熱くなりました。「蛍の光」や「ふるさと」、「大きな古時計」など、皆知っている曲だったので、たくさんの利用者さんが一緒に歌ってくれました。

そのあとトロンボーンとチューバも入り、金管5重奏をしました。「ミッキーマウス」や「アンパンマン」、「サザエさん」などを演奏しました。視覚的にも楽しんでもらえるよう、曲ごとに頭にキャラクターのお面をつけました。

全体的に、笑顔が多かったことが印象的でした。音楽は人を楽しませる力を持っていると思います。また、このような機会をつくりたいと思いました。

松阪祇園祭

7月16日(土)、7月17日(日)に余暇活動で松阪祇園祭に行きました。

両日共に天候に恵まれ、祭り日和になりました。利用者さんは普段中々使う事のない電車を使い、近鉄漕代駅から松阪駅まで行きました。駅で待っている間、利用者さんは駅を通過していく電車を間近で見、手を振ったり「すごーい」と言って興奮している様子でした。電車に乗ると10分ほどの乗車でしたが外の景色を見たり電車の中をキョロキョロしたり興味津々でした。

祭りの会場に着き、屋台を見て回りました。「おいしそうやなー」といろんな屋台を見入っていました。その中から自分の食べたいものを予算内で選び、買って食べました。から揚げやカキ氷、カステラといった祭り定番のものを選び、とてもおいしそうに食べていました。



途中で神輿をしている人たちが横を通って行き、すごい歓声と熱気で利用者さんも圧倒されているようでした。

今回外出した利用者の皆さんがとても楽しんでいただいたようで、「また行きたい!」と言ってくれました。外出すると普段施設では見られないような笑顔だったり、意外な一面が見られたりします。これからも余暇活動を積極的に行い、外出する機会をつくる事で施設内では味わえないような、喜びや楽しさをいっぱい感じてほしいなと思います。

青空福祉会とは

2017年4月新規事業開設に伴い、新しい建屋を建設いたします。

それに先駆け、2016年4月「保護者と共に作り上げる施設」を目指し、“青空福祉会”を発足致しました。“青空福祉会”とは通所利用者の保護者を中心とした保護者会です。保護者とこいしろの里職員で定期的に意見交換会や学習会を開催していきます。保護者の皆さんと職員で手を取り合い、ともに歩んでいきたいと思っておりますので、青空福祉会の開催時にはぜひ施設に足を運んでいただきたいと思います。



新建屋イメージ図



出店予定

- 10月15日 まつさか駅前楽市（松阪市日野町 ベルタウン）
- 10月16日 夢の手作り市（三重県総合文化センター）
- 10月16日 Cotti 菜カフェ（三重県総合文化センター）
- 10月18日 岡寺山観音市（松阪市中町 1952 岡寺山継松寺）
- 10月23日 勢和多気マウンテンバイクレースバザー
（多気郡多気町古江 1041-1 勢和の森マウンテンバイクコース）
- 11月 6日 フローラバザー（松阪市伊勢寺町字向山 2579-32 フローラ内）
- 11月19日 まつさか駅前楽市（松阪市日野町 ベルタウン）
- 11月20日 夢の手作り市（三重県総合文化センター）
- 11月20日 Cotti 菜カフェ（三重県総合文化センター）

ぜひ、お越しください！

